

## 学生確保の見通し等を記載した書類

1. 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況
  - (1) 学生確保の見通し
    - ア 入学定員設定の考え方及び定員充足の見込み……………P. 2
    - イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要……………P. 2
    - ウ 学生納付金の設定の考え方 ……………P. 3
  - (2) 学生確保に向けた具体的な取組み状況 ……………P. 3
2. 人材需要の動向等社会の要請
  - (1) 人材養成に関する目的等 ……………P. 3
  - (2) 社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 ……………P. 4

## 1. 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

### (1) 学生確保の見通し

#### ア 入学定員設定の考え方及び定員充足の見込み

大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程共創工学専攻の入学定員は、本研究科博士前期課程各専攻の入学定員を再編し、10名と設定する。本専攻は、前身となる生活工学共同専攻の工学人材育成基盤に、人文学・社会科学、データサイエンスの専門性を取り込むことで、共創による工学領域の拡大を図る。再編に際しては、生活工学共同専攻の入学定員7名に加え、同課程各専攻の定員充足率の状況を考慮して、学長の強いリーダーシップの下、比較社会文化学専攻から2名、ライフサイエンス専攻から1名を移動し、新設後は3名増の10名とする。

本専攻の基礎となる共創工学部は2024年4月に新設されたが、本専攻は、本専攻が目指す社会の多様なニーズに応えられる専門性の高い工学系イノベーション人材育成への期待や要請が高まっていることから、その要請に応えるべく、共創工学部の学年進行の完成を待たず、2年前倒しで設置する。したがって、当面の入学志願者として想定されるのは、主に本学の既存学部生及び留学生、社会人である。

10名の入学定員に対する定員充足については、後述する、入試実績、本専攻への入学意向に関するアンケート結果から示される学生確保の見通しから、十分な見込みがあると言える。

#### イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

##### ①入試実績からの学生確保の見通し

現在、本学の大学院（人間文化創成科学研究科）には博士前期課程において様々な分野をもつ6つの専攻（比較社会文化学専攻、人間発達科学専攻、ジェンダー社会科学専攻、ライフサイエンス専攻、理学専攻、生活工学共同専攻）がある。この中で本専攻の母体となる生活工学共同専攻は「生活のための工学」という理念のもと、共創のための手法を培ってきた。従って、本専攻への入学元となる本学内の学科は、共創工学部の卒業生が出るまでの間は、生活工学共同専攻への入学者が最も多かった生活科学部人間・環境科学科となると考えられる。つまりこれまでの生活工学共同専攻の入試実績が重要な指標となると考えられる。

このため、人間文化創成科学研究科博士前期課程生活工学共同専攻の入学試験結果（2020年度～2024年度）【資料1】を客観的データとして、学生確保の見通しについて検討した。入学定員7名に対して過去5か年平均で、20.4名の志願者、13名の入学者があった。志願者倍率は過去5か年平均で、2.91倍と高い数値を示している。入学者は年度によって増減はあるが、平均すると設定した入学定員10名を上回っている。さらに、多くが本学学部からの進学者であることから、上記入学者の出身別データ【資料2】から検討を行った。本学出身者は過去5か年平均で9.8名であり、入学定員10名を見込めると考える。

【資料1：大学院人間文化創成科学研究科 博士前期課程 生活工学共同専攻 入学試験実施状況】

【資料2：大学院人間文化創成科学研究科 博士前期課程 生活工学共同専攻 出身別入学者】

##### ②学生アンケートからの学生確保の見通し

現在、大学院博士前期課程の入学者の多くが本学学部生からの進学である。また、共創工学の

「工学に人文学・社会科学の視点を加えることで、社会ニーズを幅広く捉える」という理念は、文系・理系の枠を超えて実現していくものであるため、全学部（文教育学部、理学部、生活科学部、共創工学部）を対象として、本専攻の構想に基づく入学意向に関するアンケート調査を行った。また、安定的な見通しを検討するため1年生、2年生、3年生を対象とした。本調査は、第三者機関に依頼して実施した。全対象者へメールで調査依頼を行い、WEBの回答フォームにて回答を行った。結果、1年生185名、2年生144名、3年生173名からの回答を得た。

大学院への進学意向及び進学時期を聞く設問で、「卒業後すぐに進学したい」174名（うち3年生59名）と回答した学生のうち、本専攻への受験希望を聞いたところ、42名（うち3年生17名）が「第一志望として受験する」、31名（うち3年生10名）が「第二志望として受験する」、24名（うち3年生4名）が「第三志望以降として受験する」と回答した。第一・第二・第三志望以降を合わせると、学部学生の受験希望者は、1年生44名（うち共創工学部から進学する学生27名）、2年生22名、3年生31名であり、関心の高さがうかがえる結果となった。これにより、高い水準での受験者数が安定的に確保できると考える。

さらに、「第一志望として受験する」かつ「合格したら入学する」と回答した学生は、1年生16名、2年生8名、3年生16名となり、共創工学部から最初に本専攻に進学する学年である1年生及び本専攻設置時に入学する学年である3年生において、設定した入学定員数を超えていた。

以上の結果から、安定的に入学定員10名を上回る学生が確保できると考える。

#### 【資料3：学生アンケートでの入学意向調査結果】

#### 【資料a：お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程「共創工学専攻（仮称）」設置構想についての入学意向アンケート調査 報告書】

## ウ 学生納付金の設定の考え方

本専攻の初年度納付金は、817,800円（入学料 282,000円、授業料 半期分267,900円（年額535,800円））であり、これは「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」に規定される標準額と同一である。

### （2）学生確保に向けた具体的な取り組み状況

本専攻は、学生確保に向け、養成する人材像や当該人材を育成するための特徴的なカリキュラム等を紹介すべく、ホームページで周知を行うほか、リーフレットを学内外に配付する。また、本学における大学院オープンキャンパスの開催や入学説明会の複数回開催により、積極的に広報し、本専攻の魅力をアピールする。

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### （1）人材養成に関する目的等

社会は大きく変化し、経済発展だけでなく多種多様な社会の要請に応えるためには多様な「知」や多角的な「視点」が必要であり、ジェンダーに関わらない多様な人材養成が必要となる。モノづくり、技術の創造といった工学系分野では特にこの考え方が重要だが、残念ながら日本でのジェンダーギャップは極めて大きく、この解消が喫緊の課題となっている。

そこで女子大である本学では、2016年に大学院博士前期課程・後期課程を改組し、奈良女子大学と共同で生活工学共同専攻を立ち上げ、従来の工学のモノづくりだけでなく、生活者の視点を加えることで生活者ニーズに応える実践力をもつ工学系人材の輩出に寄与してきた。また、2024年度に学士課程を改組し、「文化」「社会」の知を「工学」と協働させ、安全、安心、快適な社会のための技術の構築と技術を応用した文化の創造を目指す共創工学部を新設した。共創工学部から接続する本専攻では、この理念を持ちつつ、高度な技術と知識、さらに実践力を併せ持ち、リーダーシップを発揮できる専門家を育成することで、工学系での専門的立場における人材のニーズに応える教育研究を展開する。

#### <養成する人材像>

技術的解決方法を探求する工学の知識、人間と文化・社会との関わりを探求する人文学・社会科学の知識及びデータサイエンスの知識を幅広くかつ協働して学び、学术界・産業界・社会との協働を通して実践する共創能力を培うことにより、社会ニーズに対応した新しい技術の構築や技術を応用した文化の創造に資する実践力を有し、リーダーシップを発揮できる人材を養成する。

## (2) 社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

### ①社会的要請（我が国の全般的状況）

社会はグローバル化とデジタル化のもと大きく変化し、経済発展とともに誰一人取り残さない持続可能な社会の実現が期待される一方、気候変動、世界規模での人口増加、食糧需給問題、パンデミックによる人々の暮らしの変化など、諸問題に直面している。

それらを解決し全世界的な目標の実現を目指すためには、理工学と人文学・社会科学など、様々な知識から多面的角度で社会全体を捉え、価値を創出する人材が求められている。

これらの要請を踏まえ、本学は工学と人文学・社会科学の知を協働することで、新たなモノや価値を創造し、未来の環境や社会、文化を共に創る人材の育成を目的とし、社会的な要請に応える「共創工学部」を設置した。この新学部による育成人材が社会のニーズに実質的に応えるためには、生活工学共同専攻で培った実践力の涵養プロセスを活用することで「人間と環境と文化の視点からモノづくりを進化させ、その成果に基づいて新しい社会や文化の創造、すなわちコトづくりに寄与する」という共創工学の理念を理解し、かつ実践力を兼ね備えた人材の育成及び能力向上支援のための高等教育機関の創設が必要であるとの考えに至った。またこのコンセプトをより実効性の高い研究教育プログラムによって実施するためには、本学が従来より有している専門分野を活用することが最も効果的であり、共創工学の理念のもと、文化情報、環境、人間を扱う3つの専門分野を設けることとした。

### ②修了者の就職実績からの人材需要の見通し

本専攻の母体となる生活工学共同専攻の修了者の就職実績（2020年度～2023年度）【資料4】を客観的データとして、人材需要の見通しについて検討した。各年度とも就職希望者数に対する就職率は92.9%～100%であり、企業等からの需要は高いと考えられる。

**【資料4：大学院人間文化創成科学研究科 博士前期課程 生活工学共同専攻修了者の就職実績】**

### ③企業アンケートからの人材需要の見通し

第三者機関に依頼し、本専攻の構想に基づく人材需要に関するアンケート調査を実施した。その結果、本専攻修了生の就職先として想定される全国の企業等68社から回答を得た。回答者の属性において、「人事採用の選考にかかわっている」回答者は94.1%であったことから、採用や選考に関わる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。

本調査において、本専攻の特色のうち魅力的だと感じる特色を選ぶ設問では、「文化」や「社会」の知と「工学」の協働に取り組むことが64.7%、「共創能力（発想力・発見力・デザイン力・対話力）、専門力、実践力を涵養すること」が76.5%、「社会課題の解決や文化の創造を通じたイノベーションを目指していること」が73.5%、「修了後の社会において役立つ実践的な科目を重視していること」が54.4%であった。このように、本専攻が養成を目指す人材像は、いずれも企業等から高く評価されていることがうかがえる。

また、養成する人材についての社会ニーズを聞く設問では、「ニーズは極めて高い」が33.8%、「ニーズがある程度高い」が55.9%、合わせて89.7%であり、本専攻の養成する人材は、社会のニーズに合致していると言える。

さらに、本専攻の修了生に対する採用意向について、「採用したい」と回答した企業等は46件（67.6%）であり、このうち現時点での採用可能人数は、合計63名以上であったことから、本専攻の修了生の企業等からのニーズは高いと考えられる。

以上の結果から、本専攻で養成する人材には、社会からの強い需要があると考えられる。

#### 【資料5：企業アンケートでの採用意向調査結果】

#### 【資料b:お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程「共創工学専攻（仮称）」設置構想についての人材需要アンケート調査 報告書】